

# X 2025年度 小論文

## 商学部・商学部第二部

問題冊子（1～2ページ）

### 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙に正しく記入すること。裏面は使用しないこと。  
また、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部の受験番号欄・氏名欄に受験番号と氏名を記入すること。
- (5) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

出題テーマ：大学で何を磨くか

次の設問に答えよ。

問 下記の文章を読んで、あなたの意見を800字程度で論じなさい。

戦後、日本人は「自分」を重要視する傾向が強くなりました。これは欧米からの影響によるところが大きいでしょう。その結果、個々人の「個性」「独創性」が大切だとさんざん言われるようになったのです。教育現場ではもちろんのこと、職場などでも「個性の発揮」を求める風潮が強くあります。

そんなものがどれだけ大切なのかは疑わしい。これまでにそのことを繰り返し書いて、話してきました。

よくたとえに用いるのが、大学時代に見た精神病患者さんのことです。その人は壁一面に大便をぬりたくる癖がありました。個性的という意味では、これほど個性的な人は滅多にいないと思ったけれども、もちろん憧れの対象にはなりません。

そんなのは個性ではない、もっと立派な個性があるのだ、という人もいるでしょう。でも、人と違うところを個性と呼ぶのであれば、やはりあの患者さんがかなり個性的なのは間違いありません。

もちろん、特徴や長所があるのはいいことです。誰もがロボットのようになるべきだと言いたいわけでもありません。

しかし、そのような個性は、別に「発揮せよ」と言われなくても自然と身につけているものなのです。周囲がお膳立てをして発揮させたり、伸ばしたりするたぐいのものではありません。むしろ周囲が押さえつけにかかっても、それでもその人に残っているものこそが個性なのです。

個性は放っておいても誰にでもあります。だから、この世の中で生きていくうえで大切なのは、「人といかに違うか」ではなくて、人と同じところを探すことです。

出典：養老孟司（2014）『「自分」の壁』，新潮新書。